

# 節目祝いさらなる発展目指す

開設5周年記念し式典 110人出席しデモンストラーションや見学も



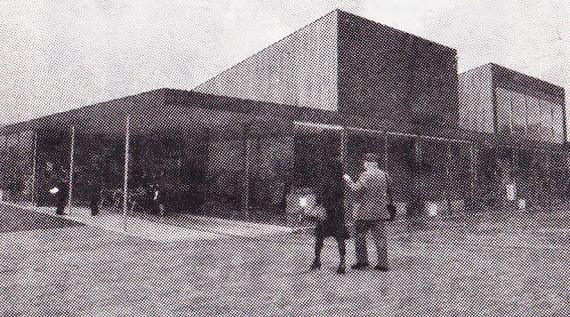
あいさつする井上理事長

## 盲導犬の里富士ハーネス

公益財団法人日本盲導犬協会関係者や支援者、導犬協会・日本盲導犬総合センター「盲導犬の里 富士ハーネス」の開設5周年記念式典が14日、富士宮市人穴の同施設で開かれた。

発展を誓う。同施設は

静岡県内初の盲導犬訓練施設として2006年10月に開設。出産から引退後のケアまで盲導犬の一生を総合的にサポートしている。当初はオウム真理教富士山総本部跡地に建設されたことで話題となったが、負のイメージを払拭（ふっしょく）し、いつでも見学できる日本初の盲導犬施設として富士宮・富士地区内外の多くの市民に親し



開設5周年を迎えた富士ハーネス

まれている。施設ではこれまでに610頭の子犬が誕生し、その中から県内をはじめとする中部甲信越地区の各地で新たな盲導犬35頭がデビューした。現在も施設内で訓練犬16頭、子犬20頭が生活している。

式典であいさつした同協会の井上幸彦理事長は、視覚障害のある人の自立・社会参加を支える同施設の意義をあらためて強調。「これからも皆さんの気持ちをしっかり受け止め、強くたくましい根を地域でさらに広げていきたい」として、一層の支援・協力を呼びかけた。支援者らも、関係者の努力に対する敬意と感謝の気持ちを表した上で、施設のさらなる取り組みへ期待を寄せた。

5年間の歩みや施設

の概要を紹介するスライドを上映後、富士宮ライオンズクラブ（石川孝会長）とボルシェクラブ静岡支部（渡辺誠次支部長）から施設に寄付金が、協会から両団体に感謝状がそれぞれ贈られた。

式典の後には出席者たちが施設内を見学し、盲導犬によるデモンストラーションも熱心に見つめた。第2部では祝賀会が開かれ、盲導犬ユーザーでトロンボーン奏者の鈴木加奈子さんによる演奏などが行われた。



盲導犬によるデモンストラーション（上）、寄付金を贈呈し感謝状を受ける富士宮ライオンズクラブの石川会長